

【 科目等履修生・学部聴講生 】

※2023年3月8日現在

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間1	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否		シラバス連番	備考
											科目等履修生	(学部)聴講生		
インド古典・仏教・西南アジ	9616001	サンスクリット(2時間コース)(語学)	4	通年	月	4			山口 周子	日本語	○	○	学部共通1	
インド古典・仏教	9617001	サンスクリット(4時間コース)(語学)	8	通年	月	5	木	5	Tao PAN	英語	○	×	学部共通2	
インド古典・西南アジア史	9633001	ヒンディー語(初級)(語学)	4	通年	金	4	金	5	虫賀 幹垂	日本語	○	○	学部共通3	
キリスト教・西南アジア史	9639001	ヘブライ語(初級)(語学)	2	前期	火	3			手島 勲矢	日本語	○	○	学部共通4	
キリスト教・西南アジア史	9640001	ヘブライ語(中級)(語学)	2	後期	火	3			手島 勲矢	日本語	○	○	学部共通5	
西南アジア史・言語学	9620001	シュメール語(初級)(語学)	4	通年	金	1			森 若葉	日本語	○	○	学部共通6	
学部共通	8041001	英語論文作成法(演習)	2	前期	火	4			大崎 紀子	日本語	○	○	学部共通7	
学部共通	8041002	英語論文作成法(演習)	2	後期	火	4			大崎 紀子	日本語	○	○	学部共通8	
学部共通	9750001	インターセクショナルティ論(講義)	2	前期集中					Jay Garfield	英語	○	○	学部共通9	

学部共通1

科目ナンバリング		U-LET49 19616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
[授業の概要・目的]											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
[到達目標]											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

**[履修要件]**

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

**[成績評価の方法・観点]**

- ・平常点(練習問題への理解度(授業期間中に「確認テスト」を実施)、40点)
- ・年度末筆記試験(60点)

**[教科書]**

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社,2015)  
ISBN:978-4393101728

**[参考書等]**

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店,1974) ISBN:978-4000202220

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくる。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておく。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通2

科目ナンバリング		U-LET49 19617 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(4時間コース)(語学) Sanskrit(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月5,木5	授業 形態	語学	使用 言語	英語
題目		Sanskrit Grammar									
【授業の概要・目的】											
<p>This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the Sanskrit language and its linguistic background. The course content basically include: (1) Learn the Sanskrit grammar and check the linguistic remarks in the textbook (see below); (2) Historical grammar of Sanskrit (for example cognate words in other language families including Iranian, Greek and Germanic languages); (3) Translate Sanskrit sentences into English (exercises in the textbook + Buddhist Sanskrit texts); (4) Occasional exercise of English to Sanskrit translation.</p>											
【到達目標】											
<p>(1) to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi)  (2) to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit  (3) to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit  (4) to understand the history and linguistic background of Sanskrit  (5) to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). Based on the plan laid out in the Japanese version of Perry 's Sanskrit Primer, the first semester covers lessons 1 to 22 and the second semester covers lessons 23 to 45.</p> <p>First semester  Week #01 Introduction to Sanskrit language  Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 1 to 22.  Week #15: Feedback</p> <p>Second semester  Week #01 Review course content of lessons 1 to 22  Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 23 to 45.  Week #15: Feedback</p>											
【履修要件】											
Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.											
----- サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット ( 4 時間コース ) ( 語学 ) ( 2 )

**[成績評価の方法・観点]**

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.  
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

**[教科書]**

Edward Perry 『A Sanskrit Primer』 ( Orient Book Distributors, 1986 ) ISBN:978-8120802070 ( both English and Japanese version will be used )  
Antonia Ruppel 『Cambridge Introduction to Sanskrit』 ( Cambridge University Press, 2017 ) ISBN:978-1107459069 ( <https://www.cambridge-sanskrit.org> )  
Manfred Mayrhofer 『Sanskrit-Grammatik mit sprachvergleichenden Erläuterungen』 ( de Gruyter, 1978 ) ISBN:978-3110071771  
The books by Perry and Ruppel can be purchased at the department room of Indological Study.

**[参考書等]**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

( 関連 URL )

<https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/MWScan/2014/web/webtc2/index.php>(Sanskrit-English Dictionary)  
<https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/AEScan/2014/web/webtc/indexcaller.php> (English-Sanskrit Dictionary)  
<https://vedaweb.uni-koeln.de/rigveda/view/id/2.1.1>(Rigveda explained)  
<http://dsal.uchicago.edu/dictionaries/>(Dictionaries of Indian languages)  
<http://www.indoskript.org/letters>(Scripts)

**[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]**

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two to three hours per week.

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通3

科目ナンバリング		U-LET49 19633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（初級）（語学） Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定助教 虫賀 幹華			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金4,5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語（初級）									
【授業の概要・目的】											
<p>インドは多言語国家であり、それぞれの州で公用語が定められている。その中でヒンディー語は、憲法第343条でインド全体の唯一の公用語とされている。中国語、英語に次いで世界で3番目に多く話されている言語であり、第一言語でなくともヒンディー語を解する人や、文法や基本語彙が同じ、パキスタンの国語であるウルドゥー語話者までを含めると、ヒンディー語でコミュニケーションを取れる相手は膨大な数になる。本授業では、今後世界の中でますます存在感を増すインドの公用語であるヒンディー語の初等文法を学び、簡単な文章の講読や会話の練習をする。</p> <p>講師は北インドでの5年間の留学経験がある。ヒンディー語の独特の言い回しや語彙、ヒンディー語ならではの思考方法、文章の組み立て方があると実感した。日本語で考えてそれを「翻訳」するのでは全くしっくりこない。インドでは英語が通じると言われるが、英語を媒介にして行われるコミュニケーションはヒンディーで行われるそれとは別物である。インド人と深い意思疎通をしたいのならば、ヒンディー語を知ることが近道だろう。そして嬉しいことに、ヒンディー語を学べば「インド英語」も断然聞き取りやすくなる。インドや南アジアについて知りたい・関わりたい人はもちろん、将来国際的に活躍したい人にぜひ受講してもらいたい。今後、世界中のどこにいてもインド人と出会うだろうから。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒンディー語の初等文法を習得する。</li> <li>2. ヒンディー語の文章を、辞書を引きながら自力で読めるようになる。</li> <li>3. 簡単なヒンディー語会話ができるようになる。</li> <li>4. ヒンディー語を通してインドの文化に触れ、世界認識の幅を広げる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>全20課から成る教科書を、原則として1課ずつ進めていく。各課は、新出単語、文法事項、文章から成り、それぞれを丁寧に解説する。他の参考書を使って補足説明をすることもある。毎回宿題を課し、次回授業で答え合わせをする。</p> <p>教科書が一通り終われば、新聞や物語などヒンディー語の文章を読んだり、ヒンディー語会話に挑戦してもらおう。教材は、履修者の希望に応じて決める。例えば、ハリウッド映画に関心があれば映画の挿入歌を翻訳したり、インド料理に関心があればレシピを読解する。インドの社会問題に興味を持っているのならば関連の新聞記事を読む。インド旅行を計画している人がいればテーマを設定して会話の練習をする。</p>											
<p>注意</p> <p>前期は、講師の都合で1日に2コマ連続（金曜4・5限）で授業を行い、6月9日に試験とフィードバック（15回目授業）を行う。後期は通常通りで、毎週金曜5限に授業を行う。</p>											
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、文字</li> </ol>											
----- ヒンディー語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（初級）(語学)(2)

### 2~3. 文字と発音

4~14. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める

< 前期・期末試験 >

15. フィードバック

### 後期

1~10. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める

11~14. ヒンディー語文章講読や会話の練習

< 後期・期末試験 >

15. フィードバック

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（40％）と2回の筆記試験（30％ずつ）で評価する。授業への積極的な参加を期待する。

### 【教科書】

田中敏雄・町田和彦 『エクスプレス ヒンディー語』（白水社、1986年）ISBN:4-560-00768-3（絶版のため入手困難。授業で配布する。）

### 【参考書等】

（参考書）

古賀勝朗・高橋明 『ヒンディー語 = 日本語辞典』（大修館書店、2006年）ISBN:978-4-469-01275-0  
（履修前に辞書を購入する必要はない。）

町田和彦 『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水社、2008年）ISBN:978-4-560-06791-8

Snell, Rupert and Simon Weightman 『Teach Yourself, Complete Hindi』（London: Hodder Education, 1989）ISBN:978-1-444-10609-1

### 【授業外学修（予習・復習）等】

毎回課される宿題をきちんと行う。授業を受け、復習して宿題を行い、次回授業で答え合わせというサイクルで学習を進めること。ヒンディー語に限らず、インドの話題に関心を持ち、授業で共有してもらえると嬉しい。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通4

科目ナンバリング		U-LET49 39639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号などの聖書テキストの伝統、またラビ文学を含む歴史的な言語文化の変化を概要するとともに、文法の基礎（名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。その際、16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と母音記号、3．音節と区切り、4．形容詞と名詞（単数と複数）、5．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、6．存在詞と非存在詞、7．現在分詞と名詞、8．語根とビニヤン（導入）、9．カルとニファル、10．ピエルとプアル、11．ヒフィルとフファル、12．ヒトパエルとニファル、13．人称代名詞と接尾辞、14．一般と唯一、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2 ~ 3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、小テスト（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語（初級）（語学）(2)へ続く-----											



ヘブライ語（初級）(語学)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業時に指示する暗記課題や練習問題をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通5

科目ナンバリング		U-LET49 39640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（中級）(語学) Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（中級）									
【授業の概要・目的】											
動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステムと、その文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解については、16 - 17世紀の文法学者の意見にも注目する。											
【到達目標】											
動詞 / 完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含む現代ヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いること。母音記号なしのテキストも多少読めること。											
【授業計画と内容】											
1．名詞文と動詞の確認、2．名詞と動詞パラダイムの諸問題、3．完了形（基本）、4．未完了形（基本）、5．不定詞と命令形、6．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、7．レヴィータ文法（時制と時間）、8．語根 / ギズラー、9．W倒置と北西セム語、10．読解聖書、11．読解ラビ文献、12．読解中世文献、13．読解近代文献、14．読解現代文、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回の授業を要する場合もある。 * * 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。 * * * 学習の区切りで、2 ~ 3 回の確認クイズをする。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、注解レポート（50%）											
-----ヘブライ語（中級）(語学)(2)へ続く-----											

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）

授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通6

科目ナンバリング		U-LET49 39620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学イラク古代文化研究所 森 若葉 特別研究員			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
[授業の概要・目的]											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
[到達目標]											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p>&lt;前期&gt; 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板実習 - 粘土板を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学について</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む（1）</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判文書、行政文書を読む</p> <p>第15回 シュメール文学作品を読む（2）</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## シュメール語（初級）(語学)(2)

### <後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む（3）
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む（4）
- 第12回 シュメール文学作品を読む（5）
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

### [教科書]

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。  
楔形文字の実習の際、粘土やカッターナイフ等を各自用意してもらう必要がある。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通7

科目ナンバリング		U-LET49 28041 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大崎 紀子			
配当 学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アカデミック・ライティング(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>学術論文やエッセイ(小論文)などの論理的な文章を英語で書く能力を養成する。前期では、パラグラフの構造を学び、英文を読むことを通じて論理的な文章構成への理解を深め、自らの視点を反映した論理的な文章を英語で書く活動を行うとともに、引用の方法についても基本的な知識と技術を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
英語と日本語の修辞法の違いを理解し、論理的で説得力のある文章を英語で書けるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>1 Guidance この授業の進め方                  2 Introduction. 書き言葉の語彙                  3-4 学術英語の基礎知識                  5 パラグラフの構造の理解、冠詞                  6-8 パラグラフの統一性と一貫性                  9-10 課題作文の添削と解説                  11-12 引用の方法、文献目録の書き方(基本篇)                  13-14 課題作文の添削と解説                  15 まとめ                  フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
受講者20人まで											
【成績評価の方法・観点】											
授業参加(クイズ、宿題提出を含む。30点)、作文課題(2-3回、計70点)											
【教科書】											
プリント教材を配布します。											
【参考書等】											
<p>(参考書)                  Alice Oshima and Ann Hogue 『Longman Academic Writing Series 4: Paragraph to Essays, Fifth Edition.』                  (Pearson Longman, 2017.)                  Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills,                  third edition.』 (The University of Michigan Press, 2012)</p>											
----- 英語論文作成法(演習)(2)へ続く -----											

## 英語論文作成法(演習)(2)

---

### [授業外学修（予習・復習）等]

教材は、事前に配布しますので、予習をして授業に臨んでください。

### （その他（オフィスアワー等））

質問があればメールで随時尋ねてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通8

科目ナンバリング		U-LET49 28041 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大崎 紀子			
配当 学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アカデミック・ライティング(2)									
【授業の概要・目的】											
英文アブストラクト、要約、引用、文献目録の書き方など、英語論文を書くための基本的な方法論を学び、英語で学術論文を書く能力を養う。											
【到達目標】											
英語と日本語の修辞法の違いを理解するとともに、剽窃を疑われない適切な引用の方法を身に付け、その技術を自信をもって使いこなせるようになる。											
【授業計画と内容】											
1 Introduction 2 Paraphrasing (書き換え) の基礎と演習 3 引用と時制、類義語 4 書き換え練習の添削と解説 5 履歴書、自己推薦書の書き方と演習 6-7 パラグラフから小論文へ 8-9 課題作文 (CV) の添削と解説 10 比較・対照論文の書き方 11 分詞構文の使い方 12-14 小論文作成演習 (作文の添削と解説) 15 まとめ フィードバックの方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
前期を受講していることが望ましい。(受講者20人まで)											
【成績評価の方法・観点】											
授業参加(クイズ、宿題提出を含む。30点)、課題作文(3回、計70点)											
【教科書】											
プリント教材を配布する。											
【参考書等】											
(参考書)											
Alice Oshima and Ann Hogue 『Longman Academic Writing Series 4: Paragraph to Essays, Fifth Edition.』 (Pearson Longman, 2017.)											
Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, third edition.』 (The University of Michigan Press, 2012.)											
----- 英語論文作成法(演習)(2)へ続く -----											



英語論文作成法(演習)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

教材プリントは、事前に配布しますので、予習をして授業に臨んでください。

**（その他（オフィスアワー等））**

質問はメールで随時お尋ねください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通9

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		インターセクショナルリティ論 Intersectionality Studies				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Jay Garfield			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	英語
題目		Buddism and Gender Equality and Diversity									
【授業の概要・目的】											
<p>As part of the Intersectionality Study, this course will discuss the diversity and equality of Gender and other categories in Buddhism from historical, cultural, and philosophical perspectives.</p> <p>The course will explore the significance and problems of Buddhism as a collective practice in the midst of lived reality, rather than as a mere legacy of the past, a mere philosophical system, or a religious activity that is divorced from the real world.</p> <p>This course will not only focus on traditional East Asian and Japanese Buddhism, but also on the contemporary development of Buddhism in North America, East Asia, and elsewhere.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will gain a basic and general understanding of the doctrines and systems of the philosophy of Buddhism, its practice, and its historical development. They can also critically study Equality and Diversity Issues in Buddhism in the context of Gender and other sociocultural categories.</p> <p>This course also enables students to gain an understanding of Equality and Diversity Issues related to Gender and other sociocultural categories that modern society faces, based on concrete examples, and at the same time, to obtain solid guidelines on how to deal with these Issues.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Lecture 1-3 : Introduction: Why and how diversity matters for Buddhism? (Jay Garfield@Smith College &amp; Yasuo Deguchi@Graduate School of Letters, Kyoto University)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• #MeeToo Movements in Buddhism</li> <li>• Ethno-cultural diversity and non-diversity of Buddhism, classical and contemporary</li> <li>• Buddhism Nationalism</li> <li>• Engaging Buddhism</li> <li>• Warp-up Discussion</li> </ul> <p>Lecture 4-6: Classical Chinese and Japanese (Deguchi)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Classical Chinese : Chen</li> <li>• Classical Japanese: Shinran, Dogen, Yuzu Nembutsu, and More</li> <li>• Wrap-Up Discussion</li> </ul> <p>Lecture 7-9: Contemporary East Asian: Taiwan (Guest Speaker)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Nun ' s ordination movement and gender quality movements in Taiwan</li> <li>• Wrap-Up Discussion</li> </ul> <p>Lecture 10-12: Contemporary East Asia: Korea (Guest Speaker)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Nun ' s ordination movement and Gender Equality Movement in Korean Buddhism</li> <li>• Wrap-Up Discussion</li> </ul> <p>Lecture 13-15: Contemporary Japan (Garfield + Deguchi + Guest Speaker)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• The Japanese Buddhism Today is by a Guest Speaker</li> <li>• General Wrap Up discussion (Garfield &amp; Deguchi)</li> </ul>											
----- インターセクショナルリティ論 (2)へ続く -----											

## インターセクショナルリティ論 (2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Performance in class 50%, Report 50%.

### 【教科書】

授業中に指示する

Participation in the Smith College summer school will attend the course. So this is a place for Smith College students and Kyoto University students to study together.

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Not Special

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。